

（「御食国」若狭 前夜 膳臣の進出）

かしわでのおみ

膳臣という一族の進出

概要

若狭と国の首都との間の政治的な結びつきは、8 世紀以前のある時点で形成され始めました。その時まで、朝廷はすでに若狭の天然の資源と日本海沿岸の戦略的位置の価値を認識していました。この地域を統治する有力な氏族は、天皇や公家に食糧（特に海産物）を供給する責任を負っていました。公式的な朝廷への食糧の提供者として、この氏族は かしわでのおみ 膳臣の称号を与えられた。

もっと詳しく知る

宮廷に食料を供給した若狭の有力氏族

7 世紀後半のいつ頃かに、若狭地方は現在の奈良県にあった大和朝廷の管轄下に置かれました。若狭は日本海側の地域の中で最も都に近く、そのため、理想的な海産物の供給源となりました。これらの資源を確保するために、この地域を支配していた有力な氏族が若狭から朝廷への食糧供給を担当する役人に任命され、公式的には かしわでのおみ 膳臣として知られるようになりました。その後の数世紀間に、首都（奈良、後に京都）との関係は、貿易路網と、若狭からの豊富な海産物に対する高い需要によって発展し、強化されました。

古代の古墳と膳臣一族

膳臣の一族は、若狭地方で発見された古墳の一部と関連があると考えられています。この一族は、貴族や氏族の長、その他の強力な人物のためにそのような墓が建てられた時代に、統治を行いました。若狭の古墳の発掘調査では、この地域が首都やアジア大陸との間の貿易拠点だったことを示すさまざまな副葬品が発掘されました。こうした品々は希少で、社会的地位を示すのに役立つ物であり、膳臣氏など都と縁のある重要人物のために築造された古墳であったことを示しています。

展示品

この展示では、膳臣氏や彼らの若狭地方での活動にまつわる工芸品や史料を集めています。若狭にあるいくつかの古墳の一つである西塚古墳の玄室から出土した副葬品のレプリカには、装飾された鏡、銀の鐘、金銅の帯金具、金のイヤリングなどがあります。粘土の破片は、かつて古墳の外側に並んでいた儀式用の道具である埴輪 はにわ に由来するものです。

展示されている文書は、江戸時代（1603 年～1867 年）の せんだいくじほんぎ 先代旧事本紀と日本書紀の翻刻であり、膳臣に関する情報を含んでいる初期の日本の歴史書の内の 2 つです。例えば、せんだいくじほんぎ 先代旧事本紀の第 10 巻には、氏祖の息子であった あらとのみこと 荒瀬命が 5 世紀に若狭地方を統治するよう任命された

経緯が語られています。